

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：令和5年9月20日（水）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 5階記者会見室
- 対応：山中委員長

<質疑応答>

○司会 それでは定刻になりましたので、ただいまから9月20日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。

御質問のある方は手を挙げてください。

はい、サイトウさん。

○記者 新潟日報のサイトウです。

今日の議題1に関してなのですが、今年度の原子力総合防災訓練柏崎刈羽でやるということで説明があったかと思うのですが、会議の中でもその地域の特徴ということで豪雪地帯であったり、あるいはUPZ（緊急防護措置を準備する区域）に40万人だったり、その特徴もあったり、あと委員長のほうからオンサイトとオフサイトの情報共有の在り方のお話もあったりと思いますが、改めてこの訓練で、どんな点を確認したいかというお考えをお聞かせください。

○山中委員長 今年の総合防災訓練、柏崎刈羽原子力発電所で行うということで、今日紹介、かなり詳細な紹介がございましたけれども、まず原子炉としては、ABWR（改良型沸騰水型軽水炉）の原子炉では初めての防災訓練ということになるかと思えます。

サイトの特徴として今挙げていただいたように、UPZの圏内に相当たくさんの住民の方がおられるということで、実際の避難の実行性、これがやはり重要なポイントになるのかなというふうに思います。

また、机上訓練にはなりますけれども、いわゆる雪の災害が同時に起こった場合に、本当に避難が実行性あるものになるのかということについても検討いただくと、いわゆるオフサイトについては、その二つがやはり重要なポイントかなというふうに考えておりますけれども、やはり総合防災訓練、必ずオンサイトとオフサイトを連携した訓練ということになりますので、いわゆる発電所の中で何が起きているかということをややはり情報として知っていただいた上で避難行動がされているかどうか、あるいは災害の情報というのを我々知った上で、発電所の事故の収束にあたる必要もあるかと思えますので、その辺り非常に情報が錯綜するというのはやむを得ないところもあるかと思うのですが、毎年工夫をしながら、訓練をしているところでございます。

これ、非常に難しい課題でございますし、本当に万が一の事故が起きたときに、その

ような情報共有がしっかりとできるようにきちっと訓練をしていきたいというふうに考えています。

○記者 その上で事業者も参加するわけなのですけども、情報共有だとかそういった点で、事業者に求めたいことがあればお願いします。

○山中委員長 これは各事業者に、こういう訓練をするときにお願いをしているわけですけども、発電所の情報を、正確に伝えるCOPという、コップコップって言うのですけども、そういう手段がございますけれども、そういう情報をきちっと正確に伝える、これをまずは電力会社をお願いしたいところです。

○記者 あともう一点ちょっと別件なのですけども、この後、臨時会議で柏崎刈羽原発の追加検査の状況について議題になっているかと思えます。現時点でその追加検査の進捗だとか、今後の見通しで、何か言えることがあればお願いしたいのですけど。

○山中委員長 追加検査の状況としては、東京電力から報告が既に上がっている4項目のうち2項目完了をいたしました。取組完了しました。という項目については、かなり詳細な追加検査が進んでるというふうに聞いております。まだ結果については、今日報告があるかどうか分かりませんが、そういう状況でございます。

残りの2項目CAP（是正処置プログラム）と、それから一過性にしない取組、この2点については、始められるところから現在始めているという、追加検査については、というところがございます。東京電力についてはその2点、まだ完了報告ございませんので、追加検査については、今できるところから始めたというところがございます。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。

フクチさん。

○記者 朝日新聞のフクチと申します。

先ほど質問が出た柏崎刈羽での訓練の話なのですけども、今日も委員からも質問が出てましたけども、雪の対応が大きなポイントになっている中で、そこが机上訓練にならざるを得ないという部分、もちろん国の訓練だけではないと思うのですが、そこが机上になるところ、委員長としてはどのように考えて受け止めてらっしゃいますか。

○山中委員長 これ総合防災訓練ということで、時期がある程度決まってしまうという、そういう問題あるかと思えます。実際に雪の中での訓練というのも、事業者防災訓練等で実施しているかと思えますけれども、今回はあくまでも机上訓練で、実際に避難ができるかどうかということについて検討するということになったかと思えます。

また改めて、事業者防災訓練、雪の中で、オンサイトとオフサイトと連携するような訓練も東京電力にはトライをしていただきたいというふうに思っています。

○記者 国全体でやる、特に、今年、柏崎ではありますけども、これを、理想を言えば全国全てのサイトで国ができればいいでしょうけれど、そもそも、持ち回りで1年に1回、

全国の一つのサイトでということなので、限界はあるのだらうと思うのですが、その辺りは、すみ分けとしては、国の防災訓練の中では机上訓練もやむなしかなという、そういうことですか。

- 山中委員長 どうしても住民の方に参加をいただいて、国全体としても訓練に参加するような、かなり大規模な訓練になりますので、たまたま時期がこういう時期になったということ。

御指摘のとおり、あの雪の状況というのも、実際に訓練の中で、今後東京電力にはトライして行ってほしいなというふうに思っています。

- 記者 ありがとうございます。

- 司会 ほかに御質問いかがでしょうか。

ウエムラさん。

- 記者 共同通信のウエムラです。

これまで、何度もお伺いして恐縮なのですが、あさってから、敦賀原発2号機の審査が、中断後、再開されて初めての審査となるかと思えます。改めて、どういった姿勢で審査に臨むのが重要かという点、お考えありましたらお聞かせください。

- 山中委員長 御指摘のとおり、日本原電の敦賀原子力発電所2号炉のK断層に関する補正書が出てまいりましたので審査を再開するということを委員会でも決定いたしましたので、審査会合を初めて開催するというごさいます。

これはもう、社長との面談の中でもお話をし、御指摘をさせていただいているとおり、これが最後のつもりで審査に臨んでいただきたいということのごさいますので、補正書としては、きちんとしたものが提出されているものというふうに期待をしておりますし、そのように考えております。

科学的・技術的な観点から、きちんとK断層のその活動性と、K断層と破砕帯、原子炉直下にある破砕帯との連続性、この二つについてきちんと会合の中で結論が出るように、慎重に進めていっていただきたいというふうに思っております。

また、事業者との理解に齟齬がないように、これは既に職員には指導したところのごさいますけれども、必ず、会合の折には、毎回まとめ資料をきちんと作ってほしいということを指摘しております。理解にずれがないように、各回、そういう資料を作っていただくということ、こういう指摘をしておりますので、きちんと審査会合を進めていただけるものというふうに考えています。

- 記者 それと別件で、今日、委員会の中でもお話がありましたけれども、来週ウィーンでのIAEA（国際原子力機関）の出張に行かれるということで、お話しいただける範囲で、どういった報告をするのかというものがありましたら、お話しください。

- 山中委員長 私自身、IAEAの総会で何か発表するということのごさいません。

総会に出て、議論を拝聴してくる、あるいは今回のALPS処理水の海洋放出については、

IAEAにかなり御尽力いただいて、レビュー等もいただいておりますので、関係者の方々に御礼と御挨拶をする、あるいはそのほかIAEAの方々と意見交換をさせていただくという、そういう目的で出席をいたします。

そのほか、総会と並行して規制者の会合もございまして、そういったところで国際的にもいろんな意見交換をしていきたいなというふうに思っています。

○記者 今のお話の中だと、規制者の会合というふうなことでしたけれども、いまだに中国政府は処理水放出に対して固い立場を示してらっしゃいますけれども、そういった国際的な理解に関しては、改めてにはなりますけれども、どういうふうに取り組を進めたいと思っておりますか。

○山中委員長 規制当局としては、これまで国際的な基準に基づいて、ALPS処理水の放出についての審査はきちんとしてきたつもりでございますし、IAEAのレビューでも、国際的な基準に従ったものであるという御判断はいただいております。

当然、中国規制当局との対話ということはずっと続けておりますので、この点については、規制当局同士の対応はこれまでどおり継続してまいりたいというふうに思っております。

今回集まります、規制当局の長の集まりと言いますのは、残念ながら中国の方は入っておられませんので、その中で意見交換するということは、今回はできませんけれども、情報発信も含めて、対話については継続的に進めてまいりたいというふうに思っています。

○司会 ほかに御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—